

新年のご挨拶

(令和2年 一般社団法人情報サービス産業協会 新年賀詞交換会より)

来賓挨拶

経済産業副大臣

牧原 秀樹

新年明けましておめでとうございます。
情報サービス産業協会の賀詞交歓会にお招きを賜り、まことにありがとうございます。原会長をはじめ、会員企業の皆様、多くの関係者の皆様にご参加されて、このように盛大に会が開催されましたことをお慶び申し上げます。



会長からお話がありましたように、今年は東京オリンピックの年で、開幕まで200日を切りました。前回大会では、戦後復興を見事に成し遂げた日本の姿を強烈に世界に発信することができました。それから56年、再びこの東京の地で開催される大会を前に、先進技術でさまざまな課題に挑戦するSociety5.0のもと、将来のレガシーになるようなイノベーションを生み出せるように、果敢に取り組みたいと思っています。

このすばらしいポスターには私も大変感銘を受けたのですが、この選手がやっているクラウチングスタートは、第1回のオリンピックの時にトーマス・バークという全く注目されていなかったアメリカの選手が、突如100メートル走でこういうポーズを取って見事優勝してしまった。これもオリンピック史上における一つの大きなイノベーションです。まさに今日お越しの皆様が、そういうイノベーションをオリンピックを契機にやっただくのだなという決意を感じたところです。

安倍内閣は発足から8年目を迎えました。この間、名目GDPは1割以上成長し、昨年には過去最高となりました。また、史上初めて全ての都道府県で有効求人倍率が1を超え

たほか、賃上げについても6年連続で今世紀に入って最高水準を達成するなど、確実に経済の好循環が生まれているところです。政府としては、本年も引き続き経済最優先で取り組んでまいりたいと思っています。

中東の情勢の激化や米中の対立、そして英国のEU離脱など、世界の経済や社会情勢は不確実性を増しております。こうした不透明な世界にあっても、自由貿易の旗手としての、自由で公正なルールに基づく国際経済体制を日本が主導してまいりたいと思っています。

情報サービス産業につきましては、デジタル技術の発展に伴って、データを活用した新たなビジネスが誕生しています。ソフトウェアはこのようなデジタル経済社会の担い手であり、今日お越しの情報サービス産業の皆様は前年比で12カ月連続の増加と、確実に堅実な成長を遂げています。今後、製造業だけではなく、農業、交通、物流、サービス業まであらゆる領域でデータの利活用が進んでいくと思います。令和の時代、イノベーションを起こし、付加価値を創出するカギとなるのが、デジタル技術とデータです。そのためにソフトウェア技術の発展が不可欠です。すでにソフトウェアがビジネスを決める時代が到来していると言えます。

経済産業省としても、去る臨時国会で成立した情報処理促進法の改正法に基づき、企業のデジタル経営改革を応援するとともに、社会全体でデータ共有を図っていくためのルールづくりを進めていく考えです。さらに、今年は5G時代に向けた情報通信技術の開発や普及促進を強力に進めてまいります。情報サービス産業の皆様には、このようなデジタル時代の先陣を切って、わが国全体のデジタルトランスフォーメーション推進に向けて業界を上げて取り組んでいただきたいと思います。

今後、経済産業行政は多くのチャレンジを乗り越えていかなければなりません。新たな芽吹きと繁栄の始まりという意味を持つ、十干十二支の庚子に当たる本年は、そのチャレンジに乗り出すのにふさわしい年であると考えています。オリンピック、パラリンピック後の未来も見据えて、全身全霊で経済の好循環を維持・発展をさせていく覚悟です。

本年が情報サービス産業協会の皆様にとりまして、ますます繁栄の年となりますことを心からご祈念申し上げて、年頭の挨拶とさせていただきます。